

平成19年3月期決算発表 補足資料

平成19年4月27日
日本ガイシ株式会社

◻ はH18/11、◻ はH19/1見直し

	18年3月期		19年3月期		前期比	20年3月期		前期比
	実績	構成比	実績	構成比		見直し	構成比	
売上高合計 <海外売上高合計>	2,838	100	3,201	100	113	3,400	100	106
単独売上高計 (うち輸出計)	2,059 (579)	100	2,228 (762)	100	108 132	2,030 (815)	100	91 107
グループ会社 NET売上高計	779		973		125	1,370		141
電力関連事業	679	24	752	23	111	790	23	105
単独売上高 (うち輸出)	510 (178)	25	560 (186)	25	110 105	610 (190)	30	109 102
グループ会社 NET売上高	169		192		113	180		94
営業利益 (%)	19 (2.8%)		64 (8.5%)		3.3倍	70 (8.9%)		109
セラミックス事業	958	34	1,265	40	132	1,430	42	113
単独売上高 (うち輸出)	616 (226)	30	802 (364)	36	130 161	915 (415)	45	114 114
グループ会社 NET売上高	342		463		136	515		111
営業利益 (%)	177 (18.5%)		310 (24.5%)		175	295 (20.6%)		95
エレクトロニクス事業	684	24	744	23	109	775	23	104
単独売上高 (うち輸出)	447 (176)	22	456 (212)	20	102 121	475 (210)	23	104 99
グループ会社 NET売上高	237		288		121	300		104
営業利益 (%)	101 (14.8%)		131 (17.6%)		129	140 (18.1%)		107
エンジニアリング事業	525	19	453	14	86	430	13	95
単独売上高 (うち輸出)	486 (0)	24	409 (0)	18	84 -	30 (0)	1	7 -
グループ会社 NET売上高	39		44		111	400		916
営業利益 (%)	14 (2.8%)		15 (3.2%)		100	25 (5.8%)		172
セグメント間売上消去	-8		-13			-25		
為替レート(円/\$)	111		116			110		
為替レート(円/ER)	137		147			150		
営業利益	313	11.0	520	16.3	166	530	15.6	102
単独営業利益	193	9.4	306	13.7	158	275	13.5	90
経常利益	309	10.9	503	15.8	163	520	15.3	103
単独経常利益	220	10.7	353	15.8	161	305	15.0	86
当期純利益	165	5.8	294	9.2	178	310	9.1	105
単独当期純利益	153	7.4	228	10.2	149	185	9.1	81
研究開発費	113	4.0	122	3.8	108	135	4.0	111
単独研究開発費	96	4.7	106	4.7	110	110	5.4	
設備投資(工事ベース)	412	14.5	260	8.1	63	275	8.1	106
単独設備投資	124		110			130		
減価償却費	190	6.7	239	7.5	126	265	7.8	111
単独減価償却費	104		113			115		

平成19年3月期 連結業績の要点

- 概況 3期連続の前期比増収、各利益とも二桁増益(営業利益・経常利益は4期連続)を達成し、2期連続で過去最高益を更新。エンジニアリング事業が減収となるも、ディーゼル関連製品の増加を受けたセラミックス事業や電力関連事業・エレクトロニクス事業が増加し、前期比増収。利益も増収効果や生産性の改善に加えて円安影響もあり大幅増益。
- 為替影響
連結: 売上 62 億円、営業利益 26 億円(前期 111 円/\$→当期 116 円/\$、137→147 円/ER)
単独: 売上 30 億円、営業利益 21 億円(112→117 円/\$、138→148 円/ER)
- 事業別業績概況
電力関連 : 73 億円増収(円安影響 8 億円)。海外市場で、中国、北米、中近東向けを中心に送変電用がいしの需要が増加、NAS電池も風力発電向け需要を取り込み増収となり、全体では前期比増収。利益も、がいしの収益改善や、NAS電池の赤字縮小により前期比 45 億円の増益(円安影響 3 億円)。
セラミックス : 307 億円増収(円安影響 41 億円)。ディーゼル排ガス規制強化を背景に SiC-DPF を中心にディーゼル関連製品が大幅増収。主力の自動車排ガス浄化用触媒担体(以下、ハニカム)も、日本並びに欧州自動車メーカー向け出荷が好調に推移し前期比増収。産業用機器は前期比微増、燃焼装置は PDP 用熱処理炉などの需要増により前期比増収。利益も、売上増・生産性の改善に加えて円安もあり 133 億円の増益。(円安影響 16 億円)
エレクトロニクス : 60 億円増収(円安影響 13 億円)。ベリウム銅展伸材は、携帯電話・自動車向けの需要が国内・アジア中心に堅調に推移、銅価格の高騰を反映した値上げ効果もあり前期比増収。半導体製造装置用セラミックスは、半導体メーカーの設備投資の増加を受け、大幅増収。プリンター用機能部品は、客先の販売方針の変更により物量が減少し減収。双信電機は、情報通信端末市場向け積層誘導体フィルターの需要が増加し前期比増収。利益は売上増やコストダウンにより、30 億円の増益(円安影響 8 億円)。
エンジニアリング : 72 億円減収。下水道予算の圧縮や地方公共団体の財政難が継続する中、価格競争も厳しく、前期比減収。利益は、売上減に伴う収益減をコストダウンにより吸収し、前期並みの 15 億円。
- ROE 10.8%(前期 6.7%)
- 連結の範囲 連結子会社数 54 社(上海エナジス、NGK 蘇州電瓷を新規連結)
持分法適用会社数 2 社(ビルラ NGK インシュレーターズ社を除外、株多治見カントリクラブを追加)
- その他
(株)多治見カントリクラブを持分法適用会社に変更。連結財務体質の一層の健全化を図るため、その資産の減価を評価したことなどから、持分法投資損失 18 億円を営業外費用に計上。

配当 期末配当金を普通配当 7 円から 9 円へと 2 円増配し、中間配当金 7 円と合わせ年間配当金を 16 円とする予定。(6 月開催の定時株主総会に付議予定)

平成20年3月期 連結業績見通しの要点

- 前期比増収・増益～エンジニアリング事業が減収となるも、SiC-DPF、NAS電池の売上増により4期連続の増収(過去最高を更新)。利益はハニカムの減益を見込む一方で、SiC-DPF の増益、NAS電池の黒字化などにより3期連続の過去最高益更新を目指す。
電力関連 : 前期比増収。がいしは需要が横這い傾向となる中で為替影響により減収の見込み、NAS電池は風力発電需要の取り込みや海外への拡販を目指し大幅増、全体では前期比増収の見直し。利益は、NAS電池の黒字化などにより前期比増益の見直し。
セラミックス : 前期比大幅増収。ハニカムは値引きや製品構成変化などにより減少を見込むも、SiC-DPF を中心とするディーゼル関連製品の需要が本格化し、大幅増収。産業用機器は前期並、燃焼装置は PDP 熱処理炉を中心に増収の見直し。利益は、ディーゼル関連製品が売上増や生産性の改善から増益となる一方で、ハニカムが売上減から減益となることから、全体では減益の見直し。
エレクトロニクス : 前期比増収。ベリウム銅展伸材は、銅価格の値下がりによる売上減を見込むも、中国市場を中心に自動車・デジタル家電向けの需要が増加し、前期並みを維持。半導体製造装置用セラミックスは、半導体メーカーの設備投資の増加を背景に、交換需要も安定的に増加し、前期を上回る見直し。プリンター用機能部品は、客先販売方針の転換による物量増加を受け、増収の見直し。双信電機は、ブルトウス向けを中心に積層誘導体フィルター製品が増加し前期比微増収となる見直し。利益は、売上増やコストダウンなどにより前期比増益となる見直し。
エンジニアリング : 前期比減収。公共投資抑制の影響で下水処理分野が減少し、前期比減収の見直し。利益は、分社化による効率的運営・コストダウン等により、前期比増益となる見直し。
- 為替影響
連結: 売上△30 億円、営業利益△17 億円(前期 116 円/\$→当期 110 円/\$、147→150 円/ER)
単独: 売上△27 億円、営業利益△15 億円(117→110 円/\$、148→150 円/ER)
- ROE 10.4%(前期比△0.4%)
- 連結範囲 連結子会社数 53 社、持分法適用会社数 2 社

配当見込み: 連結は増益基調にあることから中間配当金を 2 円増配し、中間 9 円、期末 9 円、年間 18 円を予定。

平成19年3月期 決算発表 補足資料(中間決算見通し)

平成19年4月27日
日本ガイシ株式会社

	18年9月中間期		19年9月中間期		前年 同期比
	実績	構成比	見通し	構成比	
	億円	%	億円	%	%
売上高合計	1,434	100	1,610	100	112
<海外売上高合計>	<705>		<775>		
単独売上高計	978	100	1,025	100	105
(うち輸出計)	(381)		(405)		106
グループ会社 NET売上高計	456		585		128
電力関連事業	329	23	370	23	112
単独売上高	236	24	285	28	121
(うち輸出)	(92)		(100)		109
グループ会社 NET売上高	93		85		91
営業利益 (%)	24	(7.4%)	35	(9.5%)	145
セラミックス事業	628	44	740	46	118
単独売上高	412	42	490	48	119
(うち輸出)	(177)		(205)		116
グループ会社 NET売上高	216		250		116
営業利益 (%)	149	(23.7%)	150	(20.3%)	101
エレクトロニクス事業	378	26	400	25	106
単独売上高	240	25	240	23	100
(うち輸出)	(112)		(100)		90
グループ会社 NET売上高	138		160		116
営業利益 (%)	69	(18.2%)	75	(18.8%)	109
エンジニアリング事業	105	7	115	7	109
単独売上高	90	9	10	1	11
(うち輸出)	(0)		(0)		-
グループ会社 NET売上高	15		105		7倍
営業利益 (%)	-22	(-21.1%)	-20	(-17.4%)	90

平成19年9月中間期
連結業績の要点

例年同様、エンジニアリング事業の下期集中出荷の影響が大きく、売上・利益ともに下期偏重となる見込み。

前年同期との比較では、売上高は、セラミックス事業でディーゼル関連製品が大幅増となるほか、他事業も増収を見込み、全体では増収となる見通し。営業利益は、各事業とも売上増やコストダウンなどによる増加を見込み、前年同期比増益となる見通し。

セグメント間売上消去	-6		-15		
為替レート(円/\$)	116		110		
為替レート(円/ER)	143		150		
営業利益	220	15.3	240	14.9	109
単独営業利益	121	12.4	140	13.7	116
経常利益	210	14.6	235	14.6	112
単独経常利益	142	14.5	155	15.1	109
当期純利益	120	8.4	135	8.4	113
単独当期純利益	86	8.8	95	9.3	111
研究開発費	54	3.8	65	4.0	120
単独研究開発費	46	4.7	55	5.4	
設備投資(工事ベース)	151	10.5	130	8.1	86
単独設備投資	56		45		
減価償却費	110	7.7	130	8.1	118
単独減価償却費	53		55		